

# 吹田市街路樹再整備計画検討業務特記仕様書

## 1 業務概要

本業務では、「吹田市道路・公園樹木適正管理指針（以下、指針と呼ぶ）」に基づき、現地調査及び文献調査を行って街路樹（道路樹木）・道路構造・周辺環境等の現況把握・解析などを行ったうえで再整備計画を立案し、本計画に基づき、代表路線を抽出して再整備実施計画を作成するものである。

## 2 業務目的

本市の街路樹は、都市のみどり環境として、良好な景観の形成、都市の魅力の向上に寄与している。その街路樹は整備後数十年が経過し、一部では巨木化、老齢化が進み健全性が低下してきたことから、街路樹の健全度調査を平成 26 年（2014 年）から進め、平成 30 年（2018 年）3 月には指針を策定して維持管理の適正化を図っている。また、グリーンインフラの活用、景観や生物多様性の保全、沿道環境の改善、道路形態、災害など多面的な視点を踏まえ、再整備の優先順位、実施手法などについても、適切で効果的な計画を立案することが求められている。

一方、街路樹が植栽されている歩道の中には、狭小な歩道有効幅員や根上がりによる舗装の持ち上げ、歩道の高低差など様々な構造上のバリアフリーの課題もみられる。

このようなことから、本業務では街路樹の健全度の調査結果をはじめ、上位計画（みどりの基本計画）や関連計画（第 2 次環境基本計画や景観まちづくり計画、吹田市交通バリアフリー道路特定事業計画など）を踏まえ、道路構造や周辺環境等の様々な要素を総合的に調査・解析・評価・分析して街路樹再整備計画を立案することを目的とする。

## 3 調査対象区域及び路線

吹田市内全域を対象区域とし、市が管理する路線のうち街路樹（高木）が植栽される路線（141 路線、延長距離 約 97km：平成 27 年現在）を対象とする。路線の延長距離は高木が植栽されていない区間の距離も含む。

## 4 業務内容

### 4.1 計画準備

関係資料を収集し、業務工程・調査方法・整理解析方法などを記載した業務計画書を作成し、本業務を円滑に遂行するための計画準備を行う。

### 4.2 資料調査

#### 4.2.1 上位計画・関連計画などの整理

本計画の策定にあたって、上位計画（みどりの基本計画）や関連計画（第2次環境基本計画や景観まちづくり計画、吹田市交通バリアフリー道路特定事業計画など）について整理する。整理にあたって、本市のみどり施策及びバリアフリーの取り組みに関する方向性・計画などを網羅的、具体的に把握する。

#### 4.2.2 既存資料整理

過年度（平成26～27年度、令和2～3年度）に実施された樹木診断結果、道路台帳、都市計画情報すいたなどから、樹木健全度、樹種特性、路線の特徴、道路構造などを解析・整理する。

#### 4.3 再整備計画の策定

##### 4.3.1 再整備の方針検討

本市が目指す街路樹の将来像として、「吹田市のブランドの一つである豊かな緑環境が一層充実している」と指針に示されている。これを実現するために指針の再整備方針の設定手順に沿って、再整備の方針を検討する（後述の道路樹木再整備方針シートの「再整備の方針」に反映）。検討に際し、「2 資料調査」で把握、整理等された既存資料を踏まえ、関係部署等との調整を行い、吹田市の街路樹が抱える課題に対応できるよう総合的に判断する。

##### 4.3.2 現地調査

###### ①道路樹木管理基礎シートの作成

道路樹木管理基礎シート（指針の資料4）の各項目（沿道土地利用、車道・歩道構造、植栽情報など）を現地調査で記録・測定し写真撮影する。現地調査で測定などできないものは文献調査や室内作業（断面模式図の作成）で把握する。

###### ②道路樹木再整備方針シートの作成

道路樹木再整備方針シート（指針の資料5）の各項目（道路樹木の諸問題、再整備の必要判断、道路の基本的な特性など）を現地調査で記録・測定する。現地調査で記録等できないものは文献調査で把握する。これらの情報等から道路の特性を把握し、再整備方針を決定する。

##### 4.3.3 路線タイプの区分の検討

指針に示す、道路樹木の基本分類、並木の道路分類を元に道路構造、周辺環境、植栽基盤などの状況を現地調査及び既存資料で把握する。これらの結果・資料等の整理・解析を踏まえ、路線ごとの特徴、位置、樹種などから類似した路線を複数の路線タイプに区分する。

#### 4.3.4 整備路線の優先順位付け

過年度実施の樹木診断結果、道路構造、植栽基盤などの立地・周辺環境などの状況から判断される、安全性の確保、並木の一体性・景観・環境保全といった都市の魅力の向上、維持管理コストの縮減などを総合的に判断して、整備路線の優先順位付けを行う。優先順位付けにあたっては上位計画・関連計画の各方針なども十分踏まえて判断する。

#### 4.3.5 再整備手法の検討

再整備手法の検討にあたっては、各路線における特性を踏まえ、指針の適正管理目標や既存の街路樹維持管理に関する文献、資料を参照し、市内の道路樹木及び道路構造、周辺環境などの現況に沿った再整備手法を検討する。

#### 4.3.6 再整備事業の概算

再整備計画を具現化していくために必要な事業項目を整理し、本市から提供する資料、建設物価、積算資料などの刊行物を元に概算事業費を算出する。

※ここでの事業費とは、測量、設計等の委託費も含めた概算費用のことを意味する。

#### 4.3.7 年次計画

道路樹木、歩道の再整備にかかる年次計画を路線の優先度、市の施策、ニーズなどを踏まえ策定する。

#### 4.3.8 再整備計画の策定

「4.3.1～4.3.7」の調査・検討を踏まえ道路樹木、歩道の再整備計画を策定する。策定に際し関係部署との調整を図り、具体的な内容となるようにする。

#### 4.4 代表路線（歩道）の再整備実施計画作成

再整備事業の事業化に際し代表路線での再整備実施計画を作成して、実施上の課題・改善点を整理する。

①「4.3.4」で設定した優先順位の高い路線を再整備実施計画路線として、整備タイプ別に選定する。

②重点路線に関係する地域住民との意見交換会を2回以上実施する。開催時期、場所については監督職員との協議により決定する。参加者は最大50人程度を想定し、地域住民は代表路線（歩道）が含まれる自治会・商店組合等とし案内・運営は受託者が行う。（地元の意向が特に大きい区間など）

＜意見交換会の内容＞

1回目：事業説明並びに意見徴収を目的とする。

2回目：意見反映・検討後の再整備計画案についての意見徴収を目的とする。

### ③再整備実施計画の策定

#### ア 再整備イメージパース作成（アイレベル）

代表路線（歩道）もしくは整備タイプの再整備のイメージ図を作成する。

#### イ 緑化手法

伐採方法、根株の掘り取り、植栽基盤整備（土壌の入れ替え）・植栽帯への変更又は閉鎖、樹種選定、植え付け、支柱設置、縁石設置・舗装の方法について具体的に検討する。

#### ウ 概算工事費の積算

路線内の区間ごとに再整備の費用を算出し、路線の概算工事費を算出する。

## 4.5 実施手法の検証

実施計画案を今後展開していくうえで、検討した緑化手法が新たな課題を生む場合も考えられる。そのため、代表路線あるいは整備タイプによっては、過年度の診断結果や現地調査の結果を踏まえ、多面的な検証が必要になる。このようなことから、検証が必要とされる路線については、以下のような手法により実施手法を検証し、検証結果を「4.4③再整備実施計画の策定」へ反映する。

<整備手法の検証例>

- ・景観（樹種、幹周、高さ、枝張り、目標樹形等を反映した街路樹による検証）
- ・風の影響（3Dモデルによる風環境シミュレーション）
- ・緑陰効果検証（3Dモデルによる日陰シミュレーション）
- ・安全性の検証（歩行者、車両からの視距の確認）

※代表路線の現況街路樹については現地踏査時に樹形等の詳細調査が必要。

## 4.6 報告書作成

本業務の成果を報告書として取りまとめる。併せて概要版を作成する。

## 4.7 打合せ協議

業務着手時及び業務の主要な区切りにおいて、打合せ協議を行うものとする。

## 5. 成果品

成果品は次のとおりとし、一式を2部提出すること。なお、電子データのファイル形式は「シェイプ形式（GIS）」、「イラストレーター形式（Adobe）」、「docx・xlsx・pptx（Microsoft）」等の一般汎用データ形式とし、これら電子データがすべて本市にて処理及び加工、修正

が可能な状態で納品すること。また、データを図面化するにあたっては、本市提供データを基に本市にて加工可能な複合図として作成すること。成果品は本業務の進行に合わせ、必要な時期に遅延なく提出しなければならない。